

九州大学

基幹総合大学として100年以上の歴史を誇る九州大学は、次の世紀に向けて動いています。それは、すべての分野において世界のトップ100大学に躍進するという「躍進百大」。国内最大規模となる伊都キャンパスへの移転事業を完了し、新たなステージを迎えた今、常に未来の課題に挑戦し、科学技術イノベーションの力で日本と地域産業の創出と発展に力強く貢献します。

九州はまた、古代から大陸文明を取り込む玄関口であり、異文化に対する柔軟な包容力を備えています。九州大学で学ぶ学生は、その豊かな文化・自然環境の中で、優れた教職員や国際性豊かな仲間、地域産業界の人々との交流を通じて、視野の広い個性的な人材に育っています。



久保千春総長

「躍進百大」の実現を目指し、国内最大規模を誇る伊都キャンパスで世界最先端の教育研究に挑む

T 0819・03095
福岡県福岡市西区元岡744
学務部入試課
TEL 092・808・2004
https://www.kyushu-u.ac.jp/

6つの骨子のアクションプラン
世界トップ100大学を目指す

九州大学は1991年、日本で4番目の帝国大学として創立されました。現在は12学部と18学府、16研究院、4専門職大学院、高等研究院、基幹教育院、5研究所、そして国内最大級の大学病院や附属図書館を擁する、我が国を代表する基幹総合大学として発展しています。創立100周年を迎えた2011年には次の100年に向け、いずれの分野においても世界のトップ100大学に躍進するというスローガン「九大百年、躍進百大」を掲げたアクションプランを策定。久保千春総長のもと、この行動計画に沿った大学改革を強力に推進してきました。

「重点的な取り組みの一つに、研究教育機構の創設があります。基幹総合大学である本学の強みや特色を活かした、エネルギー、アジアなどの研究分野で、さらなる発展と融合教育への還元を目指しています。また、四学期制の導入やダブルディグリープログラムなど、国際通用性のある教育カリキュラムも充実しています。留学生は学生の13%の約2400人います。2018年の共

創設部の開設以降も、2020年4月には芸術工学部、2021年春には工学部と工学系大学院の改組を行うことで、大学も進化を続けています」と久保総長は説明します。

2018年9月に移転が完了した伊都キャンパスは、東西3km、南北2.5km、総面積272haという広大な敷地に約2万人の学生・教職員が集う、単一の校地としては国内最大規模を誇るキャンパスです。

里山の風景や美しい海岸線が広がる豊かな自然環境が魅力ですが、次世代技術を生み出す世界最先端の実証実験キャンパスでもあります。水素エネルギー、有機ELデバイス、燃料電池などの研究開発に取り組みと同時に、AI運行バスサービスや独自の個人認証技術を採用したICカードの利用といった、近未来社会のモデルを体感できる場となっています。これほどのキャンパスは世界でも類を見ず、次世代の「総合研究の拠点」と言えるでしょう。

このほか、世界最先端の医療設備を整備した病院キャンパス（医・歯・薬学部）はアジアにおける「生命医療科学の拠点」として、筑紫キャンパスは物質・環境・エネルギー分野の「先端科学の融合拠点」として、それぞれ特色ある教育研究を展開。さらに、国立大学で唯一、芸術工学部を擁する大橋キャンパスはアジアにおける「先端的デザインの拠点」であるとともに、世界で注目を集めるSTEAM教育という、



アートとデザインを取り入れた先進的な教育を展開しています。

デジタル学習環境を整備
混乱なくオンライン授業に移行

今年には新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、九州大学でも5月の連休明けからオンライン授業を始めました。

「現在は約4900科目をオンライン授業で実施していますが、特に問題なく運用できています。本学では2013年にパソコンを必修化し、翌年からはeラーニングの学習支援システムを導入するなど、デジタルの学習環境を全学的に展開してきました。その成果が十分に発揮できたと思っています」（久保総長）

九州大学の新1年生は全員、まずは伊都キャンパスで1年間の基幹教育を受けます。これは低年次のうちに、生涯にわたって自律的に学び続けるアクティブ・ラーナーとしてのもの見方・考え方を身につける大切な教育です。来年度の状況がどうなっているかは予測が難しいとこ

ろですが、この基幹教育も含め、当分は対面授業にオンライン授業を組み合わせ、ハイブリッド授業になることを考えられます。

「音声と画像がずれたり、課題の



量の多さが指摘されるなどいくつかの課題は見られましたが、自分のペースで授業に集中できたなど、概ね高い満足度が得られています。今後も様々な課題を解決しながら、さらに充実した授業のため改善を図っていきます」

（久保総長）

九州大学は、海外留学や国際体験プログラムの充実も大きな特徴ですが、現時点では現地に渡ることが難しい状況です。こうした中、海外の大学や研究機関などの豊富なネットワークを生かし、オンラインによる海外大学の授業を受講することが予測されます。

九州大学の医学部には学術用のインターネット技術を駆使し、諸外国の医療機関との間で各種の遠隔医療教育を行うアジ

ア遠隔医療開発センターがあり、学生にもオンラインで手術を見学するなど試みを実践されてきました。今後はあらゆる分野で、こうした取り組みによる新しい国際交流の実現が期待されます。

新型コロナウイルス克服
期待される研究の数々

卓越した研究力を誇る九州大学では、新型コロナウイルスのワクチンや治療薬の開発、ウイルスの基礎研究なども盛んに行われています。「農学研究院の目下部宜宏教授は、ワクチン候補となるタンパク質の開発に成功しています。この成果を、薬学研究院の植田正、西田基宏両教授との共同研究により加速させているところです。治療薬に関してもいくつか候補薬が見つかっており、ワクチンと薬ができれば、現状の問題はかなり解決されるでしょう。さらに今後は、前述の遠隔医療やAI（人工知能）を用いた診療も進むだ

国際的な研究のハブ
最先端に触れる環境

九州大学の先進的な研究は国内外から注目されています。その一つが水素エネルギー研究です。低炭素社会の実現を目指して基礎基盤研究から産学官と地域が一体となった産学連携研究が実施され、世界トップレベルの研究成果を生み出しています。また、高度人材育成にも力を入れており、水素エネルギーに関わる科学・技術を一貫して学ぶことができます。

また、工学を産業のために応用し、数学の新研究領域の展開に取り組むマス・フォア・インターストリ研究所を日本で初めて設置し、世界でも稀

な研究所として注目されています。災害時の人の動きをシミュレーションして社会の防災に役立てるなど、数学の応用による多様な課題解決が期待されています。このような先駆的研究を行う特徴的な研究所を多数有しています。

2018年に開設された「共創学部」は、文理融合による先進的な教育を実現しています。その特徴は、学生が自らデザインする課題解決型のカリキュラム。実践的な協働学習留学の必須化など、これからの社会でリーダーを担う人材に必要な資質を養成します。

経済的な理由で学問を途中で断念することのないよう、奨学金や授業料免除の制度が充実しており、コロナ禍においても速やかに緊急学生支援のための基金を創設しました。また、学内にはキャンパスライフ・健康支援センターがあり、学生と教職員に対する健康支援、心理支援、障害者支援などが専門的に行われています。

「本学は施設・設備はもちろん、文理問わず幅広い分野でトップクラスの研究者と学生が集まっています。とても自由な雰囲気のある大学です。自分の好きなことを思う存分学べると思っています。単なる知識や技術の獲得に終わらず、科学と人間性のどちらも追求して深めていける大学生活を送っていただきたい。大きな夢と意欲のある学生の皆さんを待っています」（久保総長）

(1) アクションプラン

「躍進百大」を目指し、「世界最高水準の研究とイノベーション創出」「グローバル人材の育成」「先端医療による地域と国際社会への貢献」「学生・教職員が誇りに思う充実したキャンパスづくり」「組織改革」「社会と共に発展する大学」という6つの骨子で構成されている。

(2) 基幹教育

新たな知や技能を創出し、未知なる問題を解決していく上での幹となる「もの見方・考え方・学び方」を習得するプログラム。「言語文化科目」「文系ディシプリン科目」「理系ディシプリン科目」「課題協同学科目」などから構成される。2年次からは「高年次基幹教育科目」に進み、専攻教育との相乗効果によりアクティブ・ラーナーへと成長する力を培う。

(3) 水素エネルギー研究

文部科学省の「世界トップレベル研究拠点プログラム」には選ばれ、低炭素社会の実現を目指す「カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所」の他、「次世代燃料電池産学連携研究センター」、「水素エネルギー国際研究センター」など、世界最先端の研究組織が多数ある。

(4) 共創学部

複雑化する地球規模の課題を解決するため、専門分野や言語の垣根を越えて世界の人々と手を組み、新しい知や価値を「共創」できる人材の育成を目指す。入学選抜については「知識を問う入試から、能力を見極める入試への転換」をキーワードに、「総合型選抜（旧：AO入試）」「学校推薦型選抜（旧：推薦入試）」「一般選抜（旧：一般入試）」「国際型入試」の4タイプを実施。詳細は共創学部Webサイトへ。
http://kyoso.kyushu-u.ac.jp/